

地域に開放された 10 坪の庭

36坪と決して広くない敷地の中に建物を道路からセットバックして10坪の空間を設けました。車も停められる緑の絨毯と共に、フェンスも塀もない小さな庭があります。そこには四季折々の花が植えられ、地域の人々の散歩コースとなり、愛される庭となりました。建主は多くの人に観てもらえるという事で、自然と庭の手入れにも力が入ります。建物に付随する塀を閉める事で、プライバシーが保て、中庭は解放と閉鎖の二刀流の使い方ができます。地域の環境に小さいながらも貢献できたのではないのでしょうか。



建築作品部門

低炭素型社会の推進

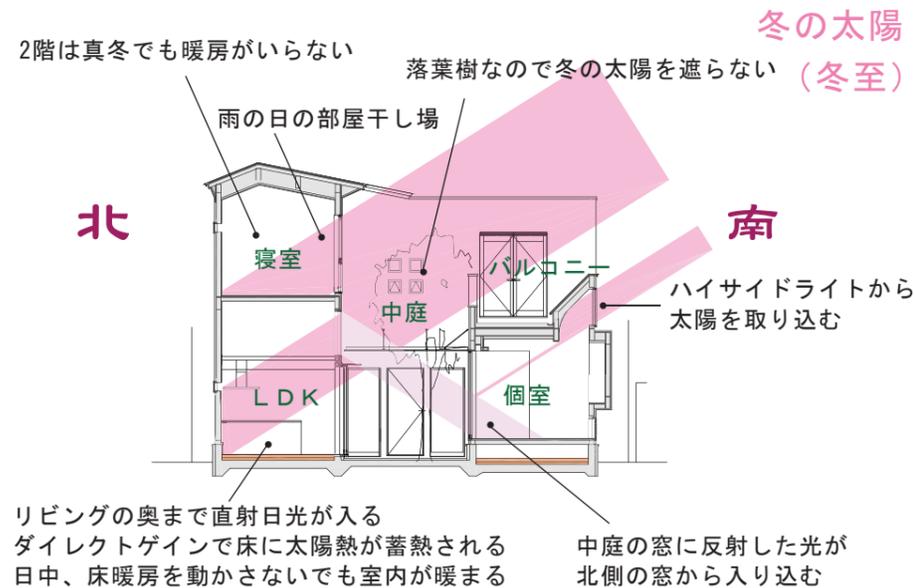
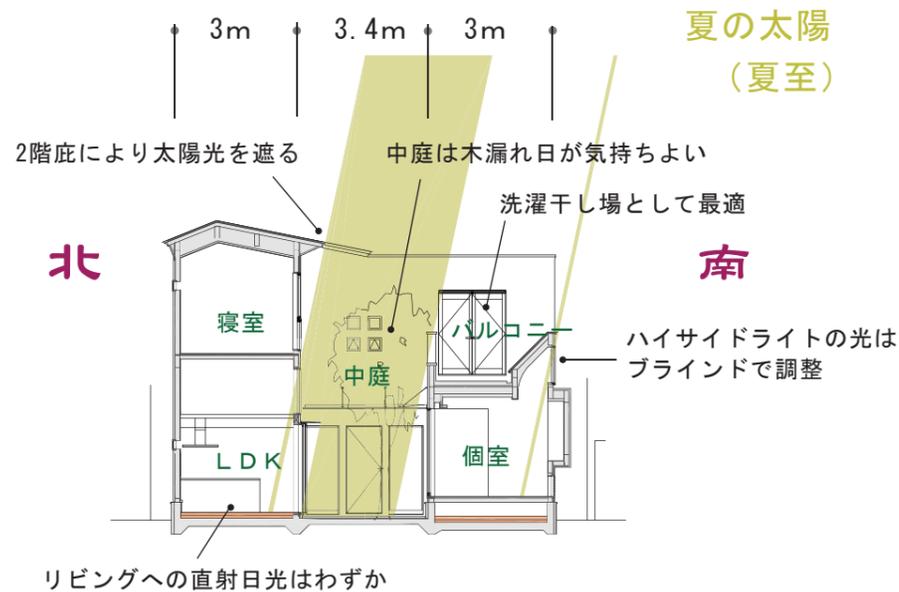
建築物の低炭素化の推進

神奈川県横浜市

四季の変化を楽しむ家

エコ住宅として太陽熱温水システムやヒートポンプによる蓄熱式温水床暖房にて常時暖房を試みています。また都会においても自然環境が楽しめるように、中庭を囲むコの字型プランの中に一本のいろは紅葉を植えました。中庭と外部を隔てる大きな扉はスライド式で防犯の役割以外にも強烈な西日を遮り、夏のエネルギーの消費を抑える役目をしています。

長期優良住宅仕様でS E構法による耐震等級3の耐震木造住宅でもあります。中庭に面した開放的な窓からは、春の新緑、夏の木漏れ日、秋の紅葉、冬の枝振り、日本の四季を肌で感じながら暮らせる家となりました。



応募代表者：中澤克秀
中澤建築設計事務所

1988年 工学院大学建築学科卒業
1988年 戸沢設計事務所勤務
1994年 中澤建築設計事務所設立
2007年 (公社) 日本建築家協会入会
2013年 JIA住宅部会会長職 (第34代)

自然と調和した有機的建築を信条とし、光や風が感じられる、温かみのある空間創りを心がけています。そこで過ごす事で豊かな心が育つような住まいを願い、依頼者の大事な環境と夢を創るという責任を感じながら仕事にあたっています。住宅はなによりも住み心地が良くなければいけません。デザインとは、カッコ良さ(視覚的)のことではなく、「かゆいところに手が届く」使い勝手のいい家のことであり、「肌にあう」相性のいい家であり、「自然を感じる」気持ちのいい空間(感覚)を追求するものだと思います。